

## 静岡県のアンチバイオグラム

静岡市立清水病院 細菌検査室 土屋 憲

2017年、静岡薬剤耐性菌制御チーム(Antibiotic Awareness Shizuoka:AAS)は①医療側(診療所)への啓発活動、②市民への啓発活動、③抗菌薬使用量、耐性菌サーベイランス、④地域アンチバイオグラムの作成、⑤感染対策支援ネットワークの強化を活動目標として発足しました。これらの目標に対する結果として主要微生物に対する各種抗菌薬の感受性率の推移を確認し、また、抗菌薬選択の参考となる情報として、地域のアンチバイオグラム(抗菌薬感受性率)が必要となってきます。総合病院においては病院内のアンチバイオグラムが作成・共有され、抗菌薬選択のツールとなっていますが、開業されている先生方が自施設のアンチバイオグラムを作成することは困難が伴います。

データ収集は静岡県感染症対策課が JANIS 検査部門参加医療機関に提供を呼びかけ収集し、集計担当者のもとに送付し、集計しています。2023年は46施設(クリニック6施設)の医療機関からデータ提供がありました。

アンチバイオグラムは2018年から作成が開始され、静岡県のホームページに掲載されています。

<https://www.pref.shizuoka.jp/kenkofukushi/shippeikansensho/kansensho/1003065/1024250.html>

上記 URL の入力あるいは「静岡県」と「AMR」の二つのワードで検索することで当該ページに迅速にアクセスすることが出来ます。

## 1. アンチバイオグラムの活用方法

感染症診療における経験的治療薬を選択する際に用います。感染臓器・患者背景・グラム染色などの情報から原因菌を推定し、次に、アンチバイオグラムを用いて、原因菌の過去の感性率を参考にすることで、より適切な抗菌薬の選択を行うことができます。各種診療ガイドラインを参考とし、抗菌薬を選択することもあるかと思えます。抗菌薬の選択においては、80%以上の感受性率を有する(重症度に応じ90%以上)抗菌薬を選択することが必要とされています<sup>1)</sup>。

## 2. アンチバイオグラムの内容(2024年1月15日現在)は下記の通りです。

- アンチバイオグラム 2023(菌種別)
- アンチバイオグラム 2023(地域別)
- アンチバイオグラム 2018-2023(経年変化)
- AMR アクションプラン 2023-2027 と静岡県

### 3. アンチバイオグラムの一例

一例として「アンチバイオグラム 2023(地域別)」の一部を図に示します。

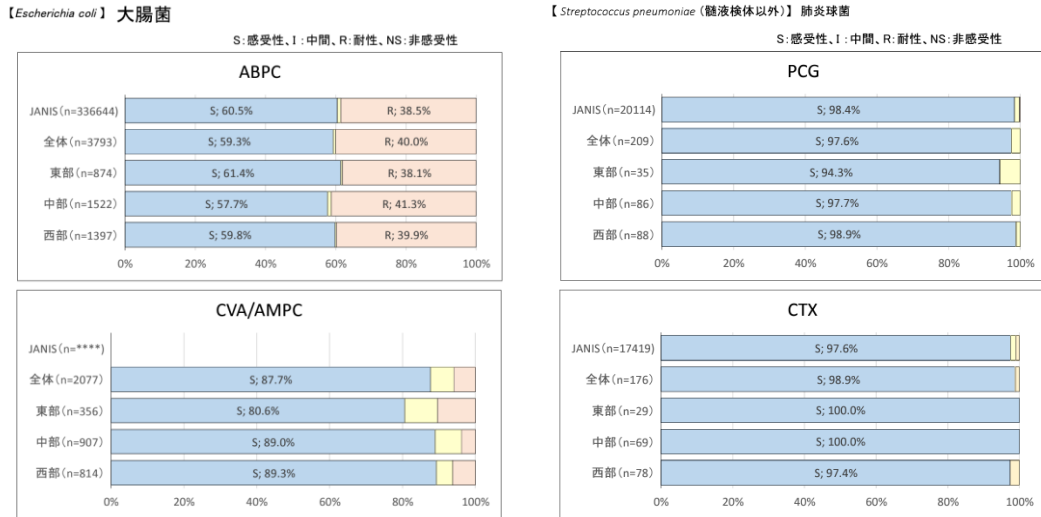


図. 静岡県ホームページに掲載しているアンチバイオグラムの一例

### 4. おわりに

抗菌薬の感受性率は地域ごと、施設ごとあるいは患者背景ごとに異なることが多いため、モニタリングしていくことが必要です。また、菌種ごとの抗菌薬感受性率や経時的な動向も把握しておく必要があります。さらに、AMR (Antimicrobial Resistance: 薬剤耐性) 対策としての抗菌薬選択も重要となります。静岡県ホームページに掲載していますアンチバイオグラムは感染症診療において、これらを実践するツールの一つに成り得るものと思います。

是非、日常の感染症診療にご活用して頂きたいと思います。

### 参考文献

- 1) 感染症教育コンソーシアム アンチバイオグラム作成ガイドライン作成チーム アンチバイオグラム作成ガイドライン 2019年3月